

第3章 基本的な考え方

本市の文化芸術に関する課題と求められている方向性を踏まえ、市全体の文化創造に対する基本的な考え方を整理し、本プランの基本理念と基本目標を示します。

1 基本理念

本プランの基本理念を以下のように設定します。

『文化芸術を愛し、 心輝く市民が育つまち』

文化芸術は、人の感性を刺激し、豊かな心を育み、生活に潤いと生きがいをもたらします。また、人との出会いや交流を促し、つながりを深めるなど、多くの人が協働し、共生する社会の基盤となるものです。

新しいまちづくりにより、新たなまちのにぎわいや魅力向上への期待が高まる本市において、市民の自主性と創造性を育み、地域の絆を形成する文化芸術の振興は、大きな意義を持つものです。

このことから、市民主体の文化芸術の振興を図ることで、市民一人ひとりの文化芸術への関心を高めるとともに文化芸術を愛する心を醸成し、まちへの愛着と誇りにつなげていきます。

そして、本市の将来に向けて、次代を担うひとづくり、さらには、持続的な活力を持ったまちづくりを実現していきます。

《文化芸術の振興》

- 市民の自主性と創造性を育む
- 地域の絆を形成する

- 次代を担うひとづくり
- 持続的な活力を持ったまちづくり

2 基本目標（施策体系の四つの柱）

『文化芸術を愛し、心輝く市民が育つまち』を実現するため、市民が主体的に文化芸術に取り組む将来像として四つの基本目標を掲げます。

目標1 文化芸術への関心と感性が高まる ～知る～

文化芸術に関する情報を整理し、市民が鑑賞や創作活動に関する豊富な情報を容易かつ効果的に手にすることができる環境を整えるとともに、文化芸術活動が盛んなまちとしてのイメージを形成することが重要です。

そのため、市民の文化芸術活動に関する情報の整備として、施設利用の情報などが入手しやすく、人材の募集、発表や展示を行う際に、個人や団体が情報を発信できる仕組みづくりを推進します。

また、これまで文化芸術に関心のなかった市民も振り向くような創造性豊かな企画を実施し、施設内だけでなく広場や公園など人通りの多い場所で文化芸術に関するイベントを開催することで、多くの市民が文化芸術に出会う場を創出し、文化芸術を通じた市のイメージ向上につなげていきます。

あわせて、文化施設などの施設間の横のつながりを生かした情報の収集・発信を積極的に行い、文化芸術に対する関心を高めます。

目標2 だれもが身近に文化芸術に親しんでいる ～鑑賞する～

鑑賞は、最も気軽に参加できる文化芸術活動であり、音楽を聴く、まちなかで展示されている芸術作品を観るなどの身近なものを含めると、だれもが日常的に文化芸術に関わっていると言えます。また、本物の文化芸術に触れる体験は、人の感性や価値観に影響を与えることもあります。

今後は、積極的に文化芸術に親しみ、質の高い文化芸術に触れる機会を充実させることで、市民が地域資源や文化芸術事業の価値を理解し、地域への愛着と誇りが高まるような取り組みを進めていきます。

特に、子どもたちに対しては、多様な文化芸術に触れる機会を提供することで興味や関心を高め、個々の活動につなげる可能性を広げていきます。

目標3 多彩な文化芸術活動を行っている ～活動する～

市民が主体的に、生き生きと文化芸術活動を行うためには、活動に関わるさまざまな環境が整っている必要があります。文化芸術活動が市民の生きがいを見出すことにつながるよう、充実した環境づくりが必要です。

そのため、各文化施設の機能の充実に加え、各種講座や文化芸術関連団体等についての情報提供、専門家による指導の実施など、市民の文化芸術活動に関する実態やニーズに応じてさまざまな受け皿や支援を展開するように努めます。

また、複合型文化施設や文化センターなどホールや練習室を有する施設だけでなく、市民の身近な活動場所である公民館・市民館などを文化創造の場と位置付け、練習から発表までの充実した活動が十分に展開できるように、施設の役割分担と機能の充実を図ります。

目標4 文化芸術を支える人とまちが育つ ～育む～

文化芸術への関わり方はさまざまです。音楽や絵画などを鑑賞する人、創作する人に加えて、こうした活動を支えるコーディネーター*やボランティアなども、文化芸術活動を支えるという意味で「文化創造の担い手」と言えます。文化芸術に対して関心がある市民、何らかの形で地域に貢献したいと考えている市民、生涯学習を通じて知識を身に付けた市民など、多様な人材を発掘し、育成することで、文化芸術を支える市民の輪を広げていきます。

特に、子どもころの文化芸術体験は、感性や心の豊かさを育むことにもなり、次代を担う人材を育てる視点からも重要な意義を持ちます。

既存の文化芸術関連団体等においても、次代の人材育成に積極的に取り組むことで、団体の継続を図るとともに、市民の文化芸術活動の基盤となるような支援を進めていきます。

また、伝統的な地域文化については、継承していくための人材育成に努めるとともに、特徴的な文化資源をまちづくりに生かしていきます。

目標1～3を進めるとともに、文化芸術に関わるさまざまな人材を育成する取り組みを通じて、より多くの市民が、「文化創造の担い手」として主体的に活動し、活力あふれるまちづくりを推進します。

用語の解説

コーディネーター…物事が円滑に行われるように、さまざまな要素の調整や進行をする人。

3 施策の体系

将来イメージ

文化芸術への関心と
感性が高まる

～知る～

- 文化芸術に関する取り組みの情報が入手しやすい
- 文化芸術活動のための情報が入手しやすい
- 文化芸術活動を行いやすい仕組みがある
- 文化芸術関連のイベントなどが定期的で開催され、にぎわいが生まれている
- 文化芸術を通じた市独自の特性やイメージが高まっている

だれもが身近に文化芸術
に親しんでいる

～鑑賞する～

- 市民が文化施設を日常的に利用している
- 身近な空間で文化芸術に関わるきっかけが増えている
- 子どもから大人までが楽しめるさまざまなジャンルの文化芸術事業が展開されている
- 子どもたちが文化芸術に身近に触れることができる
- 気軽に参加できる参加体験事業が充実している
- 地域の歴史や文化に触れる機会が日常的にある

多彩な文化芸術活動を行
っている

～活動する～

- 市民が主体的に文化芸術活動に取り組んでいる
- 子どもから大人までが継続的に取り組める文化芸術関連講座等が充実している
- 地域の活動拠点をさまざまな活動に利用している
- 活動や発表をする場や機会が充実している
- 専門家による質の高い指導を受ける場や機会がある

文化芸術を支える人と
まちが育つ

～育む～

- 次代の文化芸術を担う人材が育っている
- 文化芸術活動を実践する市民が増えている
- 文化芸術活動を支える市民の輪が広がっている
- 文化芸術活動に関するボランティアの仕組みがある
- 団体において人材育成と創造活動の基盤がある
- 地域の文化資源をまちづくりに生かしている

